

1. 現状と課題

平成30年住宅土地統計調査によると、**いの町**（以下「町」という。）の**空き家率は18.7%**という結果であり、**全国空き家率13.6%**を大きく上回っています。

空き家対策として、空き家を活用した移住促進事業「空き家バンク」を実施し、地域踏査等による空き家調査、所有者へアンケートによる空き家提供意向確認を行い、物件確保に努めてきたが、**アンケートの回収率は18.5%**と低く、物件登録数も充分ではありません。その結果、**移住者の受入れも十分にできず、転入人口増加の歯止め**となっています。

空き家による問題点

【所有者】

- 近隣トラブル発生
- 資産価値低下
- 特定空き家に指定
 - ・固定資産税が最大6倍に跳ね上がる
 - ・強制撤去されることもある



【町】

- まちのイメージ低下
景観・環境悪化、倒壊の危険、犯罪の温床
- 著しく老朽化すれば、**住民の生命・財産をも脅かす**

町・所有者に大きなデメリットあり！

まさに空き家は「負の遺産」！！

2. 解決策の提案

必要なこと、**■所有者へのアプローチ** ■サポート体制構築 ■多種多様な「空き家」の活用
以上のことから、下記の政策を提言します。

空き活ガイドンス（アプローチ）

所有者に空き家のデメリットを直接的に説明し、空き家に関する危機感を持っていただき、活用につなげます。会場開催・オンライン・出張型など、所有者の居住地や年齢層に合わせて開催します。



空き活サポーター（サポート体制構築）

所有者・空き家活用希望者からの多岐にわたる悩み・相談に応じたサポート体制を構築し、円滑な空き家活用につなげます。

【サポーター】

司法書士・行政書士、遺品整理事業所、不動産業者、金融機関、工務店・建築士、商工会・起業コーディネーターなど

空き活マッチング（多種多様な「空き家」の活用）

既存事業「空き家バンク」の制度に、下記の2点をプラス（拡充）することで、空き家バンク物件登録強化と空き家活用の加速化を図ります。



+

①空き家活用の多様性と柔軟性確保

- ・店舗、イベント空間などとしての活用
- ・所有者が使用しない時期のみ他者に提供可能

+

②所有者と活用者のマッチング強化

所有者と空き家活用希望者の意向をつなぐ（ホームページ上でデータ管理・発信）

3. 政策効果

空き家を変える！！

負

（マイナスの遺産）



豊かさを生み出す

富

（プラスの財産）

みんなにとってWin-Win！！

【町】

移住世帯増加、起業件数増加、税収増加
まちのイメージアップ、空き家減少

【所有者】

家賃等の収入増加、物件の長寿命化

【空き家活用希望者】

希望通りの物件に入居
思い描いたライフプランを歩める